

上田市立神川小学校

体育科 6 学年

単元名 「タグラグビー」

授業者 林 奈南（上田市立神川小学校）

指導者 中塚 洋介（南信教育事務所指導主事）

1 本時の主眼

空間を使ってチームのみんなで協力してたくさんトライをしたいと願う子どもたちが、空間を作る作戦を選んだり、試合の作戦確認をしたりする場面、自分の考えを伝え合いながらたくさんのトライにつなげることができる。

2 視聴覚機器の役割（本時）

時数	過程	視聴覚機器の活用	子どもの姿
5 本時	導入	・前時の試合の動画をテレビで見る。	・前時の動画を見て、良い動きを確認する。
	展開	・タブレットを使って作成した作戦板で、作戦の確認をする。 ・遅延再生カメラの動画をテレビに映し出し、自分やチームの動きを見る。 ※ギャラリーから撮影した動画を、作戦タイムに合わせて遅延させた。	・できた空間に走り込めるように練習する。 ・良い動きを認め合う。作戦を立てる。
	終末	・タブレットを使って記録を蓄積する。	・学習を振り返り次時の課題を確認する。



3 授業の概要（・学習活動 ◇ICT 活用と効果）

（1）導入

- ・前時をふりかえり、本時のめあてを確認した。

学習問題

空間を使ってチームのみんなで協力してたくさんトライをするにはどうすればよいだろう。

学習課題

空間を作る作戦を選んだり、試合で作戦を確認したりする時に自分の考えを伝えて、トライにつなげよう。

◇前時の動画を見ることで、子どもたちが空間を使う動きを確認し、課題を共有できた。

（2）展開

- ・チーム練習

◇タブレットを使って作成した作戦板で、作戦の確認をすることで、自分の役割を確認できた。

- ・試合（40 秒で攻守交替）

◇遅延させた動画を見て、選んだ作戦ができていないか確認することで、友だちの



良い動きを認めたり、自分の動きを確認したりして、自分の考えを友だちと伝え合うことができた。

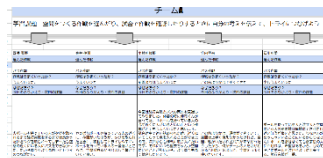
（3）終末

- ・本時のふりかえり

◇本時のふりかえり

をタブレットを使

って記入して次の課題を共有した。



4 研究会の要点

【参観の視点】 試合で作戦を確認する場面で遅延再生カメラを使って「作戦ができていないか」「空間ができていないか」を確認したことが、その後の試合でトライにつながる動きになっていたか。

○空間を生かしながら作戦を考えていた。映像を見ながら次へ次へと考えていた。

○前回パスをしすぎたので、今回はパスをしすぎないセンター作戦を立てた。最初はうまく決まらなかったが、走れる子が守備を引きつけ、空いている人にパスを出して、そこで点を入れるという作戦を考えた。攻めの状況を確認することで、空間ができることに気づいた。情報機器によって「わかる」という精度が飛躍的にあがった。

○遅延再生カメラは俯瞰して見えるよさがあった。一つの手立てとして機能していた。試合が終わるとカメラを見ながら話し合いが始まるので、環境的に整っていた。

5 指導者の助言

- ・ボール運動における ICT 機器の使い方がはっきりしていた。また、ICT 機器をどのように使ってどのような資質能力をつけたいかが明確になっていた。
- ・ICT 機器以外の手立てもしっかりしていた。
- ・役割を明確にしようとした話し合いが見られた。
- ・ふりかえりも画面で共有していたので、他の児童の記載を見ることで、よりよいふりかえりにつながった。

6 今後の課題

- ・ICT 機器を使うことを目的にするのではなく、子どもたちが学ぶための有効な手立ての一つとして考えたい。遅延させた動画を見ることは、チームや自分の動きを捉えるためにとても有効である。今後は他の単元においても、有効に使えるように考えていきたい。